

テストの哲学的解釈

株式会社日本システムディベロップメント
アジャイルプロセス協議会 知働化研究会
時本 永吉

結論

アジャイルのテストの考え方って素晴らしい

ふと思っってしまった

テストは何故するの？

テストは必要なの？

テストをしないと何が困るの？

良いコードをかきたい

何がしたいか明確なコードを記述する



言葉（メソッド）を作り、
文章として読めるものを記述する



オブジェクト指向

良いコードをかきたい

↓

抽象的な言葉（クラス／メソッド）と
具体的な文脈（シナリオ）の記述する

↓

言葉が文脈に織り込まれたとき、
正しい意味（意図）で解釈できるかを
確認する

テストって

文脈（シナリオ）に適合するよう
テストケースを考える

だったら、

シナリオとテストケースを考えるのは
同じタイミングじゃないか？

別々に行ったテストに何の意味があるのか？

テストって

設計者とテストケース設計者が別の場合、
二人が意識違いをしていないか、
どうやって確認してるんだろう

テストって

別々にすると無駄じゃない？
別々にすることで、
設計者、実装者、テストケース設計者
の三人の考えが発生するし、
それだけ記述も重複してしまう

テストをしないって意味じゃない

主張には根拠が必要
コードにテストが必要なのは当たり前

気になったのは、
テストが根拠を主張するためものではなく、
契約（承認が必要なドキュメント）
でしかないこと

契約に縛られてる

設計書書いて、承認もらって、
コード書いて、承認もらって、
テストケース書いて、承認もらって、
テストを実行して、承認もらって・・・

試してみた

デスマ気味で承認プロセスが
アバウトになったプロジェクトで
アジャイルに振る舞ってみた

試したプロセス

設計書を受け取る



設計書に対するテストケースを書いて、
漏れているケースを確認する
(テストデータと検証環境も整えておく)



実装する



テストを実行して、
検証環境で期待通り動いたことを確認する

得られた効果

実装前に
意味・意図を確認するため、
名前が付けやすい
(メソッドを作る単位が明確になる)

得られた効果

実装時に悩まない
テストケースは設計書を補完するもの

だから

早い
読みやすい
誤解釈・漏れがない

経験から至った結論

テストをプロセスではなく、
確認する・主張する根拠とする
という考え方で行くと
早く、確かなものが作れる

アジャイルテストの考え方



- アジャイルチームはアプリケーションの品質が既知の状態にあることを保証する
- テストと品質がアジャイル開発の中心
- アジャイルチームは、ソフトウェアが顧客の要求に合うように取り組んでいます

もう一步先へ

テストは品質のために行う

品質とは、いかに顧客を満足させられたか

顧客を満足させるために
顧客との意思疎通の確認に時間を費やしたい

考えてること

テストのこの考え方から
開発プロセスって変えられないかな？

アジャイルマニフェストを
哲学的（意味論的）に解釈してみる

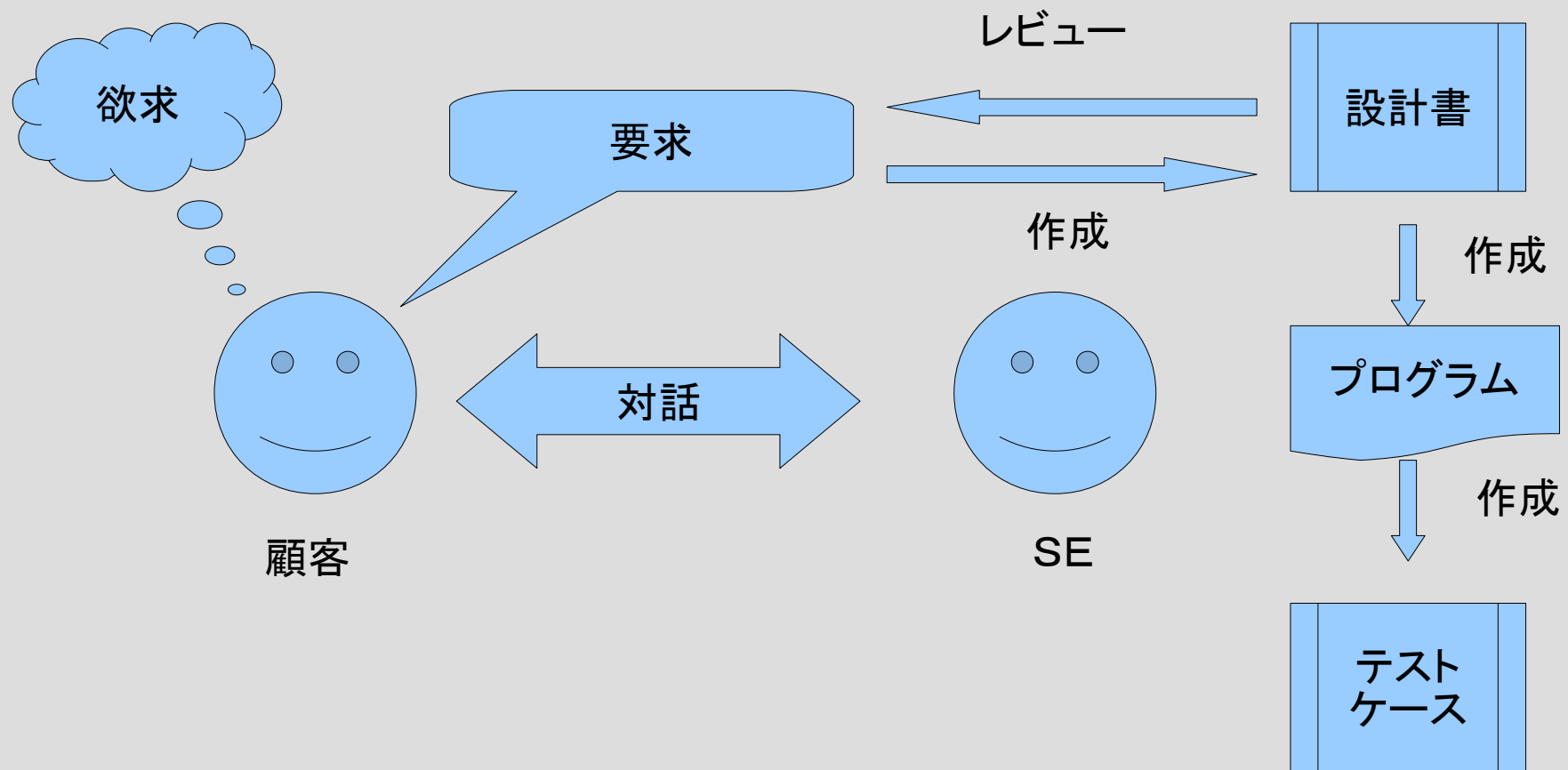
『包括的なドキュメントよりも 動くソフトウェアを』

設計書（シナリオ）の
具体的な説明、
完全性・無矛盾性の主張の根拠と
レビューの議事録として、
テストケースを併せて提供する

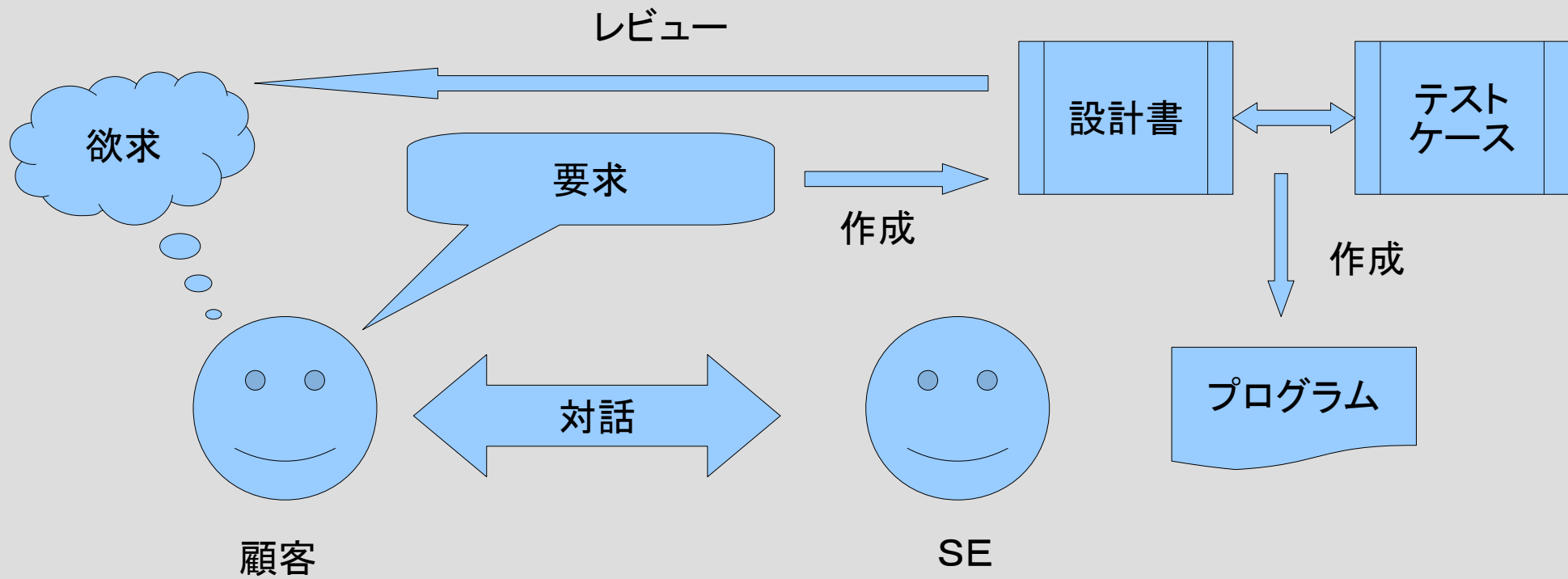
『契約よりも顧客との協調を』

要求を満たすのではなく、欲求を満たす
欲求を満たすために語り合う

これまで



これから



『プロセスやツールよりも 個人との相互作用を』

意味論として徹底的に議論する

教養として哲学が必要だ

アジャイルに振る舞うだけではなく、
アジャイルに振る舞うことによって
得られるものについて、
どうやれば得られるかを考え、議論する

知働化研究会

知働化
研究
会

- どんなプロジェクトでもアジャイルであるべきだが、アジャイルだとかアジャイルではないとか、そんな垣根を越えて、システム開発のあるべき姿について議論し合う
- テーマは各自持ち寄り

<http://www.exekt-lab.org/>

ご清聴ありがとうございました

批判お待ちしております
TEF-ML へ